



「エルトル号の遭難」
1学年ブックトラック

1 学年 「エルトル号の遭難」

明治二十三年(一八九〇年)、和歌山県の樫野の住民は遭難したトルコの人々を助けた。そのことは日本とトルコを結ぶきっかけとなり、今でも友好的な関係が続いている。

国際理解・国際貢献 視点・鍵: 人類の発展に貢献する

生徒の感想より

- 国籍関係なくみんなそれぞれ思いやりをもって行動していることに、人の温かみを感じました。
- エルトゥール号の遭難は悲惨な事故だったが、日本人の対応は良かったし、トルコにも助けられ良かったと思う。また、困っている人がいたら、差別や偏見で決めずに自分でできることは何か考えて過ごしていきたい。
- たくさんの人を助けて、たくさんの人に助けられることによって、たくさんの人が幸せになると知りました。
- 数十年前の恩が返ってくるなんて、すごいなと思いました。日本とトルコの関係は非常に素晴らしいので、世界中の国々が、このような関係を築いていけたら、理想です。
- いざというとき助け合えるのも、人との交流があってこそだと思った。

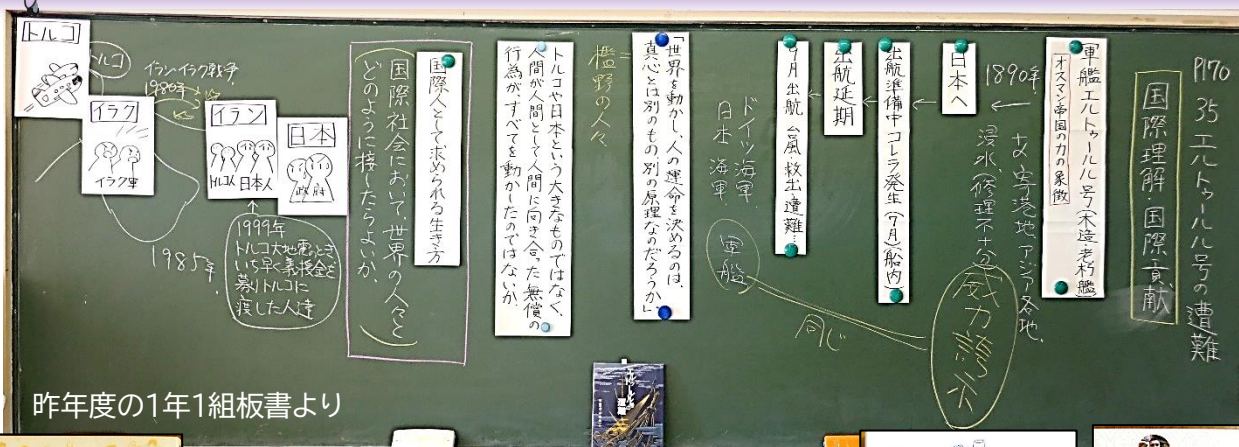


明日への扉を開く鍵

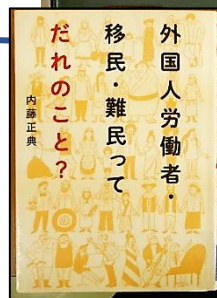
今回も「学校図書館」の本中心。



学年フロアのブックトラックから、道徳に関する図書を紹介していきます。自分の視点を広げたり、考えを深めたりするきっかけにしてみましょう。



昨年度の1年1組板書より

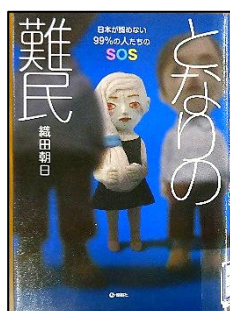
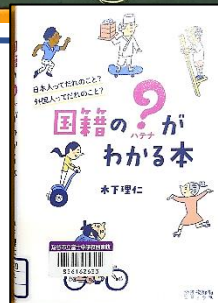


「外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？」
内藤正典 集英社 329ナ

「となりの難民日本が認めない99%の人たちのSOS」
織田朝日 旬報社 328オ

「国籍の？(ハテナ)がわかる本」
木下理仁 太郎次郎社エディタス 329キ

「ぼくたちクルド人
日本で生まれても、住み続けられないのはなぜ？」
野村昌二 合同出版 328ノ



●「国際社会」とは、「国と国が無関係ではられない」ということです。お互いの歴史・文化等を知らないと、良好な関係を築くことは難しいことは分かっている、どう理解していけばいいかを知って実行している人は多くない。今回紹介した本、どれか一冊でも読んでみてください。理想の実現には、知識と経験が必要です。

「地政学」関係の本。
地理が歴史にとっていかに重要な要素なのかが分かります。

